

L17b 日本における1999年しし座流星群の昼間流星観測報告

芹澤 寛隆 (日本流星研究会)、戸田雅之 (日本流星研究会)

1999年11月18日02hUT(=11hJST)にしし座流星群はヨーロッパでZHR4000程度の大出現が見られた。日本で5ヶ所の観測地で8人の観測者によって昼間にしし座流星群の流星が観測された。18日00hUT(09hJST)台から03hUT(12hJST)台までに46個観測され、最も多いのは02hUT(=11hJST)台の1時間で33個観測されている。

日本でも流星の電波観測で大出現を捕らえる事ができた。極大日当日、昼間流星の観測者の1人が電波観測を実施中に電波流星のカウント数が著しく増加したので、直ちに他の観測者に連絡して昼間流星の観測を促したため、組織的な観測が可能になった。8人の観測者全員が流星観測経験者で多くの観測経験をつんでいるので、昼間の金星や飛行機との見誤りが混入する可能性は少ない。昼間に流星が見えるならば金星(-4等級)以上の明るさの流星が流れていると見込まれるが、ヨーロッパでは金星級以上の明るい火球出現数が少なかったという報告がある。

2000年のしし座流星群の極大予想時刻は1999年より1時間程遅れて18日03hUT(=12hJST)と予測がされている。日本では今年もしし群の出現ピークは昼間ではあるが、昨年と同等以上の観測体制をしく予定である。ポスターセッションでは1999年しし座流星群の昼間流星観測の報告を行い、2000年しし群の昼間流星の出現の可能性について発表する。